

地 理 歴 史

1 地理・歴史科の目標とねらい

Q 新学習指導要領では目標としてどのような点が強調されなければならないか。

地歴公民科の目標は次のとおりである。

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

これは従前と同じ文言となっているが、教育課程審議会の答申における改善の基本方針等を踏まえた場合、次の点を重要視しなければならない。

・「主体的に生きる」及び「一員」の意味するところは、日本を含む国際社会に関心を持ち、諸課題の解決に自ら参加協力するといった、責任と自覚をもってその国家・社会に参加しその形成に主体的にかかわる存在であることである。

つまり、地理歴史科の学習では、究極においては、自らがよって立つ民主的、平和的な国家・社会を維持・発展させる責任と自覚を養うことが目指されているのである。

2 各科目における改善の具体的な内容

Q 各科目の改訂の要点は何か。

①「世界史A」の改訂の要点

ア 日本史の欠落した世界史にならないように、前近代においてもできる限り「内容」に我が国の歴史を位置付け、世界の中の日本をとらえさせるように工夫した。

イ 前近代史については、8世紀から15世紀の間にユーラシア大陸ないし海洋世界に成立した交流圏の中から二つ程度選択して学習させるなど、内容の精選を行った。

ウ 従前の、19世紀以降を近代史ととらえ世界史を欧米を中心とする世界の一体化ととらえる視点を相対化し、アジアに一層目を向け、16世紀から18世紀の歴史を重視した。

エ 20世紀史については、まずその特質を人類的視野から把握させ、続いて通史を概観した上で、人類の課題について適切な主題を設定して追究させる構成とした。

②「世界史B」の改訂の要点

ア 世界史Aと同様に、我が国の歴史と関連付けた世界史理解の必要性から、各時代の日本を世界史の構造に位置付けて扱えるように構成した。

イ 現行の文化圏別の内容構成をあらため、より柔軟な概念として「地域世界」別の構成とし、その形成、交流と再編、結合と変容、地球世界の形成という四つの時期区分にしたがって全体を構成した。

ウ 主題学習の充実を図り、学習の導入部分として「(1) 世界史への扉」を設け、また、内容「(5) 地球世界の形成」のエ、オ、カは、指導計画の最後の世界史学習のまとめの部分として、追究・考察の成果をまとめたり発表したりする時間として設定している。

③「日本史A」の改訂の要点

ア 新しい大項目として「(1)歴史と生活」を

設定し、課題を選択して主体的に追究する学習を拡充し、歴史的思考力の育成を一層重視した。

イ 通史部分については前近代の部分を大幅に削除し、「日本史A」は近現代中心という性格を一層明確にした。

④「日本史B」の改訂の要点

ア 新しい大項目として「(1)歴史の考察」を設定し、歴史への関心を高め、主題を設定し追究する学習を拡充し歴史的思考力の育成を一層重視した。

イ 世界史的な視野に立って総合的に理解させる趣旨を一層明確にし、それぞれの大項目の内容として、「東アジア世界の動きとも関連付けて」、「国際関係の変化とその影響にも触れながら」などの表現を用いた。

ウ 内容の重点化を図って時代をできるだけ大きく総合にとらえさせるようにし、中項目の統合を図った。また、世界史の中の日本という趣旨を明確に示すような内容とした。

⑤「地理A」の改訂の要点

ア 再構成した「(1)現代世界の特色と地理的技能」では、作業や体験を通して現代世界を地理的に大観するとともに、地理的な技能や見方や考え方の基礎が身に付くようにした。

イ 「(2)地域性を踏まえてとらえる現代世界」では、(1)で身に付けた地理的技能を活用するとともに、地理的に追究する学習を重視することによって、地理的な技能や見方や考え方を身に付ける学習が一層充実できるようにした。

ウ (2)においては、異文化理解と地域を越えて人類が取り組むことが必要となっている地球的課題について、主題学習的に取り扱うよう項目構成を工夫した。

⑥「地理B」の改訂の要点

ア 大項目を「(1)現代世界の系統地理的考察」、「(2)現代世界の地誌的考察」、「(3)現代世界の諸課題の地理的考察」の3項目とし、(1)及び(2)において地理的な探求の方法を身に付け、その上で(3)においては、それらを活用することによって、地理的な技能とともに地理的な見方や考え方を身に付ける学習が一層充実できるような構成とした。

イ (3)では、地域性を踏まえて追究し考察することが効果的な地球的課題に重点を置いて、現代世界の諸課題を主題学習的に取り扱うような項目構成とした。

ウ (1)～(3)の大項目の中のすべての中項目において、二つの小項目から一つを選んで取り扱うといった項目内選択を取り入れ、また(3)においては、複数の中項目からいくつかを選んで取り扱う項目間選択を取り入れた。

3 授業改善の方向

Q 各科目の改訂の要点が指し示す授業改善の方向はどのようなものか。

各科目の改訂の要点は、地理歴史科として次のような授業改善の方向が必要であることを示している。

① これまでのような知識を教えがちな指導を改善し、生徒が主体的に学べる学習へと転換する。

- ・これまで以上に主題学習を重視する。
- ・思考力を育てる学習を重視する。
- ・学び方を学ぶ学習を充実する。

② 生徒が学ぶ意義を見いだせるような内容を工夫し、生徒が現代の世界や日本がわかる、あるいは自分の生き方や考え方を見つめ直すきっかけとなる授業を実現する。

4 指導と評価について

Q 評価の重要性をどう考えるか。

そもそも学習指導における評価とは、平成12年12月の「教育課程審議会答申」によれば、「教育がその目標に照らしてどのように行われ、児童生徒がその目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにし、また、どのような点でつまづき、それを改善するためにどのように支援していけばよいかを明らかにしようとする、言わば教育改善の方法とも言うべきもの」である。

この意味はこれまでににおける位置付けとなんら変わるものではないが、今時の改訂において強調される理由は二つある。

- ① 基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、自ら学び自ら考える力など「生きる力」を育むためには、生徒の学習の状況と目標への到達の度合いについて、これまで以上に確かな評価と指導が求められる。
- ② 「開かれた学校」という視点からは、「評価に関する説明責任」を十分に果たすことが、学校と家庭や地域社会との相互信頼を築く重要な要素である。

すなわち、高等学校において従来から実施してきた目標に準拠した評価を充実させ、より生徒の学力の向上につながり、また信頼を受けるものとしていかなければならない。

Q 指導と評価の一体化とはどういう考え
方か。

指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導につながる評

価を充実させることが重要である。視点を変えれば、生徒の学習を評価と言うことは、教師の指導を評価することでもある。

Q 評価の方法・場面・時期をどのように
工夫しなければならないか。

評価は、学期末や年度末に出す「評定」だけを意味するものではない。単元や1時間の授業の中では、その単元や授業の学習目標に照らして生徒の学習状況を確認し、どれだけ変化しているかを明らかにすることが評価であり、1時間の授業の中にも評価の場面を位置付けることが必要である。

また、評価の方法としては、定期考査などのペーパーテストの外、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等、様々な手法が考えられる。生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を工夫することも考えられる。

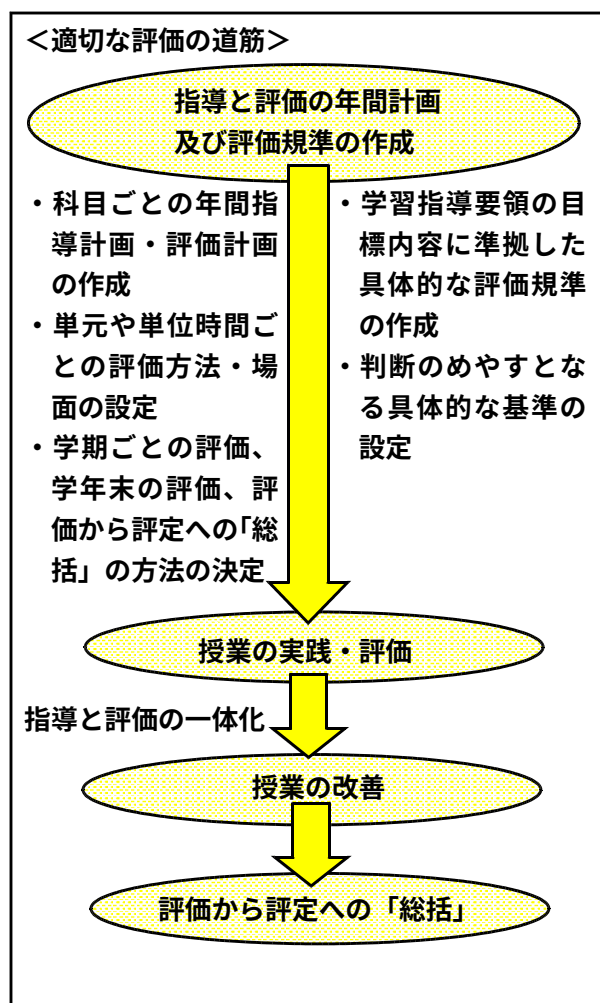
また、ペーパーテストにおいても、単に「暗記された知識量」（観点別では知識・理解）だけを問う問題ではなく、思考・判断や技能・表現の力をみる問題の工夫も不可欠である。

さらに、課題追究学習においては、「学習の過程で考えたことや学習の成果を適切に表現させる」ことが重要であり、課題の設定・資料の活用・考察の内容・結論に至る論拠など、様々な視点からの評価が必要である。

Q 適切な評価を行うためにはどのような
手順が必要か。

適切な評価を実施するためには、年度初めの段階で「年間指導計画・評価計画」・「評価規準」が作成されていなければならない、それに基づいて、授業の実践・評価、授業の改善がなさ

れ、最終的には、学年末の評定へと「総括」されなければならない。その大まかな流れは、下図に示したとおりである。



以下に、「目標に準拠した評価」と「評価規準」についての基本的な考え方を示す。各科目ごとに目標に準拠した評価を確実に実施していくにはするには、次の手順が必要である。

ア 目標の設定

「学習指導要領」の教科・科目の目標に従った、「学習指導の目標（ねらい）」を設定する。

イ 観点別の評価の実施

アの教科・科目の目標は全体としての抽象的な実現状況を示しており、この目標から達成度を評価することは困難である。そこで、

評価に当たっては、目標をいくつかの観点に分けて評価（観点別評価の実施）し、その後

<4 観点と趣旨>

観 点	趣 旨
関心・意欲・態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
思考・判断	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
資料活用・表現	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的・地理的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

※「趣旨」とは、地理歴史科の目標及び内容を踏まえて具体的に記述したもの。

ウ 評価規準の設定

目標に到達しているかどうかを評価するためには、「学習指導の目標（ねらい）」が実現された状態が具体的に想定されていなければならない。その具体的な想定が評価規準である。

言い換えれば、生徒の学習状況を測定する際の物差し（スケール）であり、「学習指導の目標」を観点別にとらえるための、具体的な視点である。

基本部分は学習指導要領とその解説に従うが、各単元ごとの評価規準など授業の実施を想定したより具体的な部分については、各学

校の実状に即して作成する必要がある。

エ 評価方法・手段の確立

「目標準拠評価」は、目標（ねらい）の実現状況を評価規準に照らして測定するものであるから、評価規準を作ると同時に、それを的確に評価する方法・手段が準備されていなければならない。

オ 指導と評価の計画の作成

評価規準に基づき、どの指導場面でどの評価を行うかということについて、少なくとも単元ごとの計画が作成されていなければならない。

カ 評価から評定への総括方法の確立

観点別に実施した評価を評定に総括する方法を確立しておかなければならない。新しい評価がこれまでのような「知識・理解」のみに偏らないものである以上、従前のおりの定期考査と小テストを中心とする評定ではなく、上述した評価方法により4観点にわたって実施した評価を評定に総括する方法を定め、生徒に説明できる状態を確立しておかなければならない。

<単元ごとの指導計画の例 日本史A>

○単元の指導計画

単元	主題学習 日本人の信仰と正月			
単元の目標	現代に残る風習や民間信仰が本来どのような意味をもち、それがどのように変化してきたかを現代の人々の生活と関連付けて追究させる。 ※この目標は、学習指導要領の「内容」をもとに作成。			
評価規準の例	＜関心・意欲・態度＞ 正月の行事や風習とその背景となっている日本人の信仰に対する関心と課題意識を高め、現代の事象と結び付けて歴史的に追究する意欲をもつ。	＜思考・判断＞ 正月の行事や風習とその背景となっている日本人の信仰から課題を見出し、我が国の歴史と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、その特色と今後のあり方について公正に判断している。	＜技能・表現＞ 正月の行事や風習とその背景となっている日本人の信仰に関する諸資料を分析し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	＜知識・理解＞ 正月の行事や風習とその背景となっている日本人の信仰についての基本的な事柄を我が国の歴史と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

○時間ごとの指導計画

(●特に記録を残す評価)

日本人の信仰と正月			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	○正月の風習や行事のからテーマを設定し、その意味や由来、その背景となっている日本人の信仰について課題追究学習を行う。	○正月の風習や行事を列挙し、テーマになりそうなことを選択する。【関】 ○図書館、インターネットを利用してテーマに関する調査を行う。【技】 初詣、餅つき、お年玉、初日の出、獅子舞、雑煮、除夜の鐘	○意見発表 ○行動観察 ●レポート提出
第2時間目	○事前提出されたレポートにより数名の発表を行う。 ○正月の風習や行事の意味とその背景となっている信仰について理解する。	○発表者はテーマとその背景の信仰等、及び現代生活の中での意味等について、レポートに基づき発表する。【技】 ○発表内容及び次の諸点に付いて、その因果関係等を考察しながら、内容を理解する。【関】 ・穀霊と祖霊に対する信仰 ・餅なし正月 ・餅の東西文化 ・除夜の鐘と仏教思想 ○正月の風習や行事を通して日本人の信仰について考察し理解する。【思】【知】	○レポート発表 ●発表を聴いて要点を理解し、問題点を指摘(プリント提出確認) ○意見発表 ○行動観察 ●理解できたことをプリントにまとめて提出

<日本史A 学習指導案例>

教科(科目)		地理歴史科 日本史A	単元名	日本人の信仰と正月
本時主題		正月の風習・行事に関する発表 (2時間目／2時間)		
本時の 目 標	①正月の風習や行事について、テーマごとにその意味と背景について調査してきた内容を発表する。 【技能・表現】			
	②他者の発表について興味・関心をもって聞き、その要点を理解し、疑問点等を見いだすことができる。 【関心・意欲・態度】			
	③正月の風習や行事を通して日本人の信仰について考察する。 【思考・判断】 【知識・理解】			
指導の内容・ねらい		学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
・ テーマの確認		○事前に提出された全員のレポートから作成したテーマ一覧表により、発表者のテーマ確認。		※提出させたレポートを返却 テーマ一覧表を配布
05分 (経過時間)		Question 1 ・ お年玉はなぜもらえるのか？ ・ 鏡餅の意味は？ ・ なぜ初詣に行くのか？		○クラスの全員がどのようなテーマを選んだかを確認し、クラスの傾向として、関心の方向がどこにあるのかを把握させる。
・ 発表 4人×6分		・ 代表的なテーマを事前に提示し、生徒の関心・意欲を高める。		
30分		○発表の手順・発表に対する対応等を説明		
		○発表者は、次の要領で発表 ・ テーマ設定の理由 ・ テーマに選んだ風習・行事の意味 (内容) ・ 風習・行事に込められた日本人の心 ・ 日本人の信仰との関係		○発表者については、発表の様子を確認 【技】 〈評価方法〉 行動観察
		○発表者以外は、発表を聞きながら、「発表レポートのまとめ」用紙に、理解できた内容・疑問点等記入		●発表者以外には、まとめを書かせ、疑問点等を指摘させる 【関】 〈評価方法〉 発問、挙手、発表 プリント提出
		○自分の発表等と比較し、補足点等を追加		
・ 正月の行事の根底にある日本人の信仰を理解させる。		○正月の風習や行事について基本的な内容・背景の確認 ・ アニミズム、祖先崇拜、農耕儀礼等と穀霊・祖霊に関する基本的な信仰の存在 ・ 年神の来臨、依り代としての門松、聖域を示す注連縄、年神の鎮座を象徴する鏡餅、年神のエネルギーを家族に分与するお年玉 ・ 丸餅と角餅など正月の儀礼に見る東西文化の相違 ・ 弥生時代からの農耕儀礼に源を発する餅文化とは異なる「餅なし正月」文化の存在の意味 ・ 除夜の鐘と仏教思想		○それぞれの因果関係等を発問しながらレポートの内容とも関連させて、ポイントを思考しつつ理解を深める 【思】 〈評価方法〉 発問、挙手、発表
45分				
・ 正月の意味についてまとめ		Question 2 ・ この学習で正月の意味について理解を深めた。どういう点があなたにとって最も意味深いと思われたか。		●プリントに自分の考えを記入させ、提出 【知】 〈評価方法〉 プリント提出
50分		○正月の意味について理解し得たことをまとめることにより、生徒自身の生活と学習事項を結びつける		